

分離技術会 年会 2007

—平成 19 年度技術・研究発表会および総会のご案内—

日 時：平成 19 年 6 月 7 日(木)， 8 日(金)

会 場：名古屋工業大学 講堂

主催 分 離 技 術 会

後援 名古屋工業大学

協賛(予定) ・化学工学会東海支部・化学工学会分離プロセス部会/超臨界流体部会/

基礎物性部会・高分子学会・石油学会・日本吸着学会・日本プロセス化学会

日本膜学会・日本溶媒抽出学会・日本海水学会・日本熱物性学会

The logo consists of the letters "SSPEJ" in a white, italicized, sans-serif font, centered within a solid black horizontal oval.

分 離 技 術 会

The Society of Separation Process Engineers, Japan

<http://www.sspej.gr.jp/>

分離技術会 年会 2007

—平成 19 年度技術・研究発表会および総会のご案内—

主催 分 離 技 術 会

後援 名古屋工業大学

協賛(予定) 化学工学会東海支部・化学工学会分離プロセス部会/超臨界流体部会/

基礎物性部会・高分子学会・石油学会・日本吸着学会・日本プロセス化学会

日本膜学会・日本溶媒抽出学会・日本海水学会・日本熱物性学会

本会の活動に対しまして、会員の皆様にはいつも温かいご支援をいただき、大変ありがとうございます。さて、「分離技術会年会 2007」を下記の要領にて開催すべく準備を進めております。つきましては、会員各位のご協力のもとにぜひ成功させたいと思っておりますので、是非とも参加くださいますよう心からお願い申し上げます。

発表は総計 130 件以上にのぼり、従来のセッションに加え、4 つの融合領域(a. 材料創製分野 b. 環境・資源リサイクル分野 c. バイオ・医薬・食品分野 d. エネルギー分野)を企画しました。合わせて、産学交流プラットフォーム、技術相談コーナーなどを準備しました。本年会は、分離技術会の活動を今まで以上に盛んにする上で非常に重要な役割を占めています。会員の皆様の絶大なご協力をここにお願い申し上げます。

記

日 時：平成 19 年 6 月 7 日(木)、8 日(金)

会 場：名古屋工業大学 講堂

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 (<http://www.nitech.ac.jp/>)

日 程：6 月 7 日(木) 9:00～17:30 技術・研究発表会・特別講演・総会
18:00～ 懇親会

6 月 8 日(金) 9:00～16:00 技術・研究発表会

● 特別講演会「ここまできた VOV への戦略的対応」

- | | | |
|----------------------------|------------------|----------|
| ・自動車産業における VOC 規制への対応 (仮題) | トヨタ自動車 | 樋口 正裕 氏 |
| ・工業洗浄分野における VOC の現状と対策 | 日本産業洗浄協議会 | 土井 泰人 氏 |
| ・溶剤のリサイクル技術の新展開 | 日本リファイン | 川瀬 泰人 氏 |
| ・溶剤の流れと今後の動向 | ミノテック環境浄化省エネサービス | 美濃部 光彦 氏 |

● 技術研究発表・講演内容

S-1 から S-8 の既存 8 セッションでは、各分野の分離技術、プロセスの新展開に関する展望講演が、企画されています。発表タイトルの一部を以下に記載しましたが、総発表数は 130 件以上ありますのでどうぞご期待ください。

S-1 気液平衡、蒸留

二酸化炭素+酢酸イソプロピル混合物の PVT 挙動／エチルバニリンのアルコール中での気液平衡挙動／溶融ポリマー中へのガス溶解度の汎用推算法に関する検討／速度論モデルによるオルダーシヨウ塔蒸留実験の解析／他

S-2 ガス吸収・気泡塔

リチウムシリケート懸濁スラリーによる高温燃焼排ガスからの CO₂ 回収／オゾン含有マイクロバブル処理による余剰汚泥からのリン分離／新しい気液接触装置における消化ガスの精製／表面発散を用いた代表時間スケールに基づく乱流液膜流へのガス移動量の評価／他

S-3 吸着

感温性ゲルを用いた金イオンの温度スイング吸着／微細藻類を用いたカロテノイドの代謝生産とその選択分離に関する検討／VOC 吸着プラズマ分解装置の開発／クロマト法による有機塩素化合物のハイシリカゼオライトへの吸着測定／他

S-4 抽出(含む超臨界流体抽出)

キレート剤を用いた貴金属の超臨界炭酸ガス抽出／水+エタノール+クエン酸三カリウム三成分系液液平衡の測定／分取超臨界流体クロマトグラフィーによる高付加価値成分の回収・精製の検討／天然物の超臨界二酸化炭素抽出における圧力効果／他

S-5 晶析

量子化学計算による KDP 結晶の着色メカニズムの解明／アンスラサイクリン系抗生物質の製造法／超音波霧化蒸発法による無機塩の結晶化操作／メカノケミカル法によるグリシンの多形転移に関する速度論的検討／他

S-6 流体固体分離

ヒドロゲルの遠心場および機械的圧力場における脱液過程の解析／排水面とは反対側の電極面積を小さくした電気浸透脱水法／遠心晶析法による晶析・固液分離の統合プロセスの開発／高吸水性ゲル粒子によるリグニン水溶液の濃縮および遠心脱水分離／他

S-7 膜分離、膜全般

分子ふるいシリカ膜の細孔径微細制御／極細シリコーンゴム中空糸膜モジュールによる空気中の有機蒸気分離／アミン液体膜による炭酸ガス分離操作／SiO₂ および SiO₂-ZrO₂ 膜によるジメチルカーボネートの浸透気化特性／他

S-8 複合分離プロセス・システム・シミュレーション

磁気分離機による FCC 廃触媒削減技術の実証化／酸性ガス吸収における pH 緩衝剤添加効果の汎用プロセスシミュレータ PRO/II™ を用いた予測／溶剤リサイクルプロセス設計に必要な水溶液系の NRTL パラメータの決定／化学工学物性データベース PCPCE-ASOGDB の構築／他

S-F 融合領域

- a. 材料創製分野
- b. 環境・資源リサイクル分野
- c. バイオ・医薬・食品分野
- d. エネルギー分野

● 特設コーナーのご案内

★ 産学交流プラットフォーム

★ 技術専門相談コーナー

参加申し込み

・参加の申し込みは、添付の申込書に所定の事柄を記入の上、分離技術会あて郵送あるいはFAX またはメールにてお申し込みください。申込書は本会のホームページからもダウンロードできます。《締め切り》 **2007年5月20日(月)**

参 加 費

- ・維持・特別会員および正会員：6,000 円，学生：2,000 円，
会員外(除く学生)：11,000 円 ※ 協賛学会の会員も本会会員と同額とします。
懇親会費(参加費とは別途)：5,000 円(全参加者対象)

参加費および懇親会費の振込先

みずほ銀行 神田支店 普通 1010899 口座名 分離技術会
郵便振替 00100-9-21052 口座名 分離技術会

※参加費は必ず前納にてお願いいたします

申し込み・問い合わせ先

分 離 技 術 会 事務局 〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-11
Tel 03-3404-6468, Fax 03-3405-9769
e-mail:jimu@sspej.gr.jp http://www.sspej.gr.jp/

「分離技術会年会 2007 技術・研究発表会」参加申込書

フリガナ			会 員 資 格	☐ 法人(維・特) ☐ 正 ☐ 学 ☐ 会員外 ☐ 協賛学会会員 学会名：()
申 込 者 氏 名				
勤 務 先				
所 属				
所 在 地	〒			
	TEL		FAX	
	e-mail:			
年会 2006 参加 申込み	必ずご記入下さい 年会 参加、不参加 懇親会 参加、不参加			
会員登録内容 の変更	会員登録内容の変更 有り、無し (変更のある場合は新しい内容を上の記入欄にご記入下さい)			

FAX 03-3405-9769